

【組織活動・保健室経営】

12：保健室経営①（小学校）

取組内容	テーマ	体調不良児童への対応		
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症は、子供は無症状であることが多いと言われている（令和3年8月現在）。実際、無症状だったけれども、後から陽性であることが判明した児童に、保健室で対応した事例もあった。</p> <p>しかし、保健室に来室する児童の来室事由は、新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱疲労や心の問題、便秘等様々である。</p> <p>感染拡大防止の観点から、新型コロナウイルス感染症が疑われる児童への適切な対応を全教職員が実践できるよう、また、対応や判断の可視化・情報の共有化を図るため「体調不良者への対応マニュアル（記録）」を作成した。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>症状を確認し対応を判断する担任・養護教諭と、別室待機に付き添い、保護者への引き渡しを行う管理職との情報共有がスムーズにできた。また、対応が必要な児童が増えても混乱がなかった。</p>		
	課題等	<p>体調不良者への対応について、早退の判断が難しい。今回、判断の目安となる項目として、「症状・状況の確認」を追記した。</p>		

【体調不良児童への対応】

	保健室	教室	職員室 別室・隔離
対応・ 記入者 サイン			



保健室保管

案

㊫ 体調不良者への対応マニュアル（記録）

年 組 ^{しめい} 氏名 男 ・ 女

日 時	月 日 ()	いつから	
	:	朝の体温、健康状態	. °C、良・
どこで		何をしています	

・心拍数 拍/分

・呼吸数 回/分

・酸素飽和度 %

・血圧 mmHg

・顔色

・基礎疾患

・予防接種 未・済

・コロナ既往

症状・状況の確認。 該当するものに✓をつけ

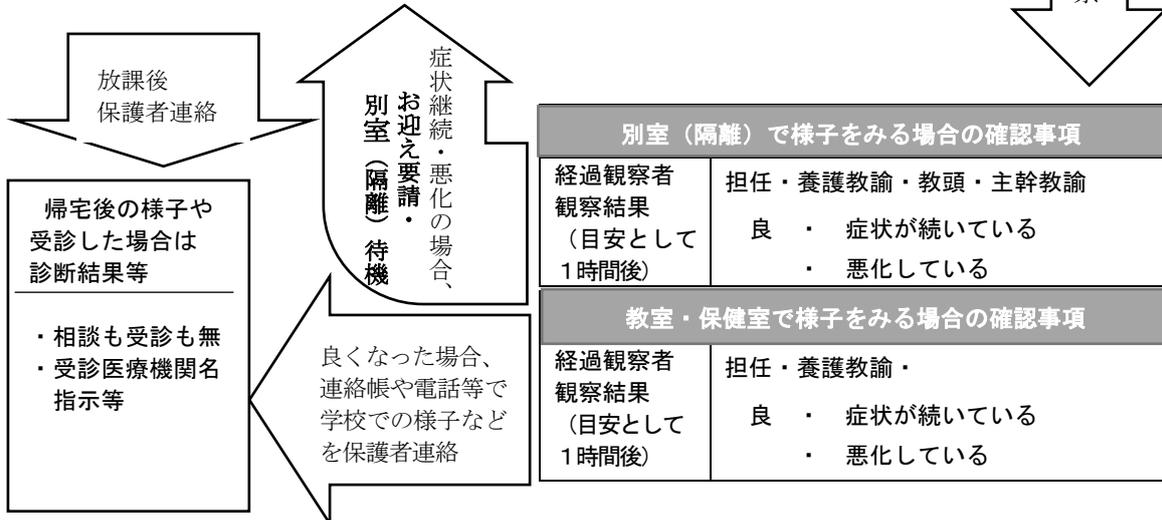
一次対応場所にて対応。 マスク、1mの間隔、短時間、手洗い、消毒

体温 . °C <input type="checkbox"/> 37.5°C以上（目安）	<input type="checkbox"/> ぼーっとする <input type="checkbox"/> 意識障害	<input type="checkbox"/> 息苦しい <input type="checkbox"/> 呼吸困難	<input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> ぐったり	<input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 激しい痛み
<input type="checkbox"/> 腹痛（下痢・便秘） <input type="checkbox"/> 持続する強い痛み	<input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 強い頭痛	<input type="checkbox"/> 鼻水 <input type="checkbox"/> 鼻づまり	水分・食事 摂取 <input type="checkbox"/> 摂取不可 <input type="checkbox"/> 味覚異常 <input type="checkbox"/> 臭覚異常	<input type="checkbox"/> 同居家族等 体調不良 （学級・学童・委員会・クラブ・登校班・習い事等） <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> コロナ関連
<input type="checkbox"/> かゆみ・充血・腫れ・蕁麻疹 <input type="checkbox"/> アレルギー発症 <input type="checkbox"/> 感染症の疑い	<input type="checkbox"/> 吐気 <input type="checkbox"/> 嘔吐	<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳 <input type="checkbox"/> 激しい咳		

があれば救急対応、またはお迎え要請・別室（隔離）

お迎え要請・別室（隔離）待機 確認事項	
保護者への連絡者、時刻	担任・養護教諭・、： 頃
お迎えにくる方、引取予定時刻	父・母・祖父・祖母・、： 頃
別室付添者、引渡時刻	教頭・主幹教諭・養護教諭・、： 頃
辿った場所・触れたものの消毒	保健室・別室・教室・トイレ・下駄箱・

☑がなければ経過観察



12：保健室経営②（小学校）

取組内容	テーマ	「検温・問診室と消毒済み表示による感染予防」について
	取組に至った経緯	<p>令和2年度は予防、待機室を目的とし、「第1」と「第2」の保健室を設定。新型コロナウイルスの2次感染リスクの軽減に努めた。しかし、形ばかりで、実質があまり伴わなかった。</p> <p>令和3年度は、教室配置上の制限が生じたが、学校長の英断により「新型コロナ予防対応に必要」ということで、保健室隣の教室2/3を会議室、1/3を「検温・問診室」とし、仕切りで区切って3月より活用している。</p> <p>名称も具体的な活動につながるよう、「検温・問診室」とし、内科的不調を訴えている児童の対応をするとともに待機室的役割を担う造りとした。隣の保健室は、けがや委員会活動・その他に使用している。</p>
	実施時期	年間（令和3年3月から）
成果と課題	成果	<p>令和2年度の反省を踏まえ、新型コロナウイルス感染症に、より効果的な対策を取ることができている。新型コロナウイルス感染症が、①熱だけでは判断しづらいことや、②症状を呈さない事例もあることから、部屋の区分けを内科と外科的症状（その他も含む）の視点で分けた。ケガの手当てで来室してきた児童の感染の可能性が低くなって、早退事由の児童の待機室として役割を果たすことが出来ている。</p> <p>現在、消毒活動中心基地的役割を担うための環境整備を進めている。</p>
	課題等	<p>常時使用ではないが、2つの部屋を1つの部屋で兼ねるため、衝立で区切っている。完全な独立性が保てない分、使用優先順や使用後の清掃消毒、清掃に来る児童の出入りの課題がある。「消毒済み表示」も課題クリアの1つの案。全ての課題をクリアし、「検温・問診室」を存続させたい。</p>

12：保健室経営（小学校）

取組内容	テーマ	保健室内のゾーニング		
	取組に至った経緯	体調不良者とその他の利用者を分けて対応するため、保健室内の区分けを行った。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の感染症予防に対する意識が向上した。 ・児童の感染不安に対する、安心感につながった。 		
	課題等	飛沫予防対策や接触感染防止の一助にはなっていると思うが、科学的な視点からは感染症予防に効果がないのではないかと感じた。		

【補足資料】12：保健室経営 「保健室経営 感染症予防のゾーニング」

1 取組内容

自校の『新型コロナウイルス感染症対策マニュアル』を基に、組織的に対応するため、保健室でも、感染症予防の一助となるよう体調不良者とそのほかの傷病者などの保健室利用者を分けて対応する、区分け（ゾーニング）を行った。

保健室の出入口が2か所あるため、前方を傷病者等の出入口で日常的救急処置対応の区画、後方を体調不良者の出入口で問診等を行う区画として利用した。

主に、検診時に使用する衝立で区分けを行い、ベットカーテンのカーテンレールを活用して飛沫防止ビニールを設置した。（感染流行時、ベッド使用率は0に近い状況であり、率先して早退の対応を行っていた。）

日々の来室者対応に平行して定期健康診断等の保健行事も行っていったことから、可動式の区分けは結果的に保健室運営を行うにあたり、柔軟かつスムーズに様々な課題対応を行うことができた。

2 保健室内の様子



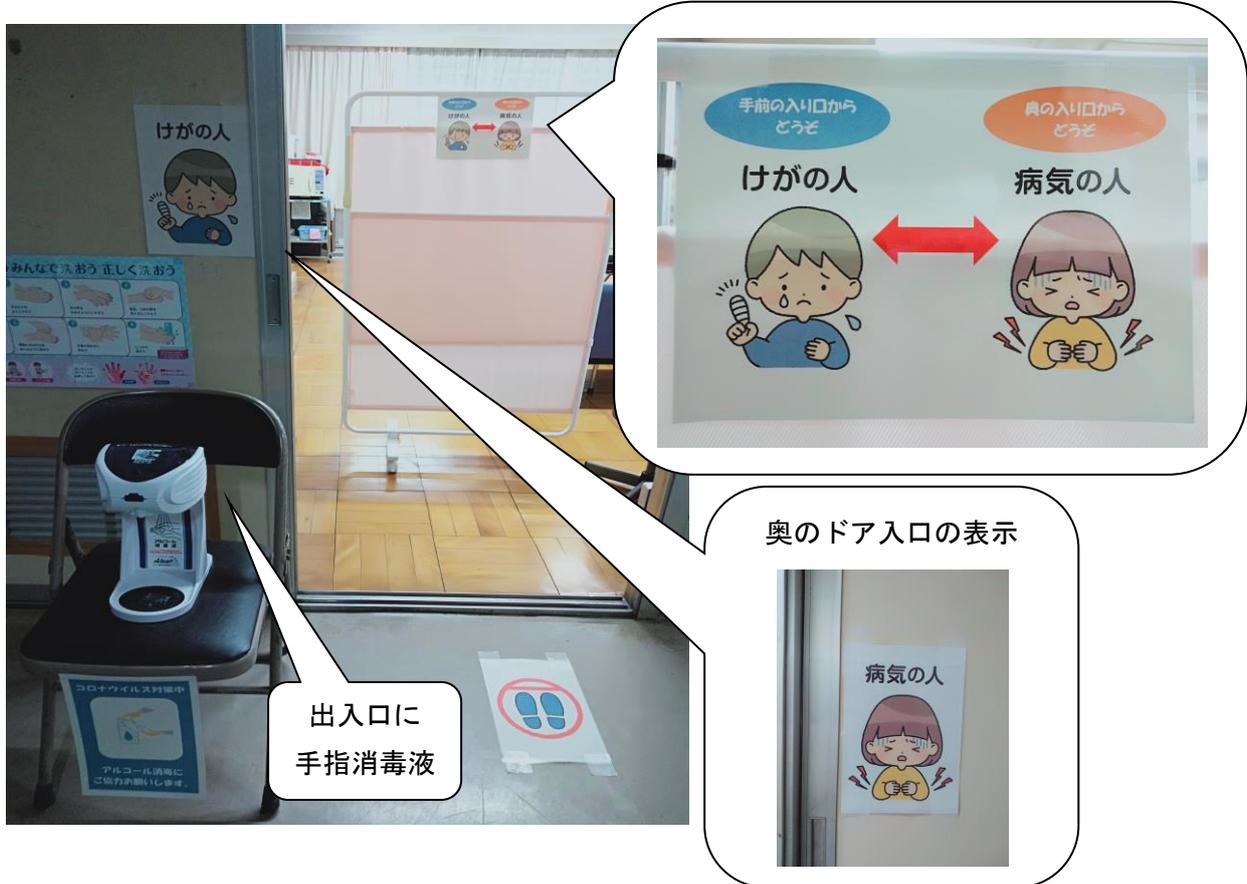
3 振り返り

新型コロナウイルス流行時は保護者、児童の感染症予防意識も高かったことから、未然に体調不良の場合は欠席する家庭が多くいた。休み時間の外遊びに制限がかかり怪我をする児童も減り来室者数が減少した。その中でも来室した児童や職員から、区分けをしていることで感染予防対策に対する意識づけや安心感があるなどの声を耳にする機会があり、簡易ながらも保健室内のゾーニングは心のケアにも効果があったと感じている。

12：保健室経営④（中学校）

取組内容	テーマ	保健室ゾーニング		
	取組に至った経緯	感染症予防を考えて、保健室を「症状がある人（具合の悪い人）」と「それ以外の人（ケガ人など）」を分けるように、空間を仕分けした。本校は、保健室近くに部屋が確保できず、養護教諭が単数配置ということもあり、出入口が2カ所ある保健室内の空間を、透明の飛沫防止のビニールシートを天井から吊るすことで分けた。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	様々な理由で来室する生徒達が、安心して利用できる保健室にすることができた。また、養護教諭の感染リスク軽減にも繋がった。		
	課題等	心身症の疑いの生徒への対応について、ゾーニングを工夫する必要がある。		

「保健室 ゾーニング」

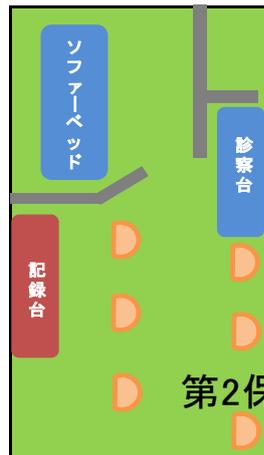


12：保健室経営⑤（中学校）

取組内容	テーマ	第2保健室の設置について		
	取組に至った経緯	感染拡大防止の観点から、内科・外科で空間を分けた対応をしたいと考え、保健室の斜め向かいの書庫室（保健室の約1/3の広さ）を内科対応専用の部屋（第2保健室）とした。		
成果と課題	実施時期	年間	補足資料	有
	成果	空間を分けた対応が教職員・生徒にも浸透し、安心して学校生活を送れている様子が見受けられる。校内での感染拡大は現時点で確認されていない。		
	課題等	内科的不調で来室しても、実際は悩みやストレスによるものだということが少なくない。限られた空間での細やかなアセスメントに苦慮するとともに、内科・外科での線引きに難しさも感じている。		

【補足資料】 12：保健室経営⑤（中学校）

第2保健室の設置について



第2保健室(内科)

廊下

保健室(外科)



12：保健室経営⑥（高等学校）

取組内容	テーマ	感染症対策に関する物品の管理
	取組に至った経緯	感染症に関する物品が増えたことにより、保管場所や在庫確認が煩雑になっていた。また発熱や頭痛などの体調不良者やメンタルヘルスの不調を訴える生徒への対応のため、保健室内に隔離されたスペースが必要になり、保健室内の物品管理やレイアウトの変更を検討した。
	実施時期	令和3年4～6月
成果と課題	成果	校舎内で所有部署が不明になっていたり、長期間使用されていなかったりするものなどの整理を行い、校舎内の倉庫を感染症対策グッズ保管庫として利用できるように整備した。 また、事務の予算担当者・環境担当者と相談し、保健室内に半個室が設置できることになった。
	課題等	保健室内の半個室の運用方法について検討中